

# 過疎地域の若者人口増加のメカニズム

## ～島根県隠岐郡海士町の事例研究～

1210405 植田 大貴

高知工科大学 経済・マネジメント学群

### 1. はじめに

現在、多くの過疎地域では、労働力の担い手である若者が減っており、地域の活力が低下しているだけでなく、産業面や財政面で困難に陥っている<sup>1)</sup>。こうした現状に対して、一部の地域では地域の特産物のブランディングや資源の6次産業化に取り組むなどして、地域の活性化を図っている。

例えば、高知県の馬路村では、人口約850人と小規模の自治体でありながら、ゆずを用いた6次産業化により、平成25年には約35億円の売り上げを計上した<sup>2,3)</sup>。それにも関わらず、働く場があっても定住につながっていないという深刻な課題がある。2000年には1000人を超していた人口が2045年には約350人まで減少すると予想されており、地域の経済活動の減速や担い手不足による産業の衰退が懸念されている<sup>4)</sup>。

このような現象は馬路村だけでなく他の地域でも見られており、過疎地域においていかにして若者を増やし、人口減少を食い止めるかが重要な課題となっている。そこで本論文では、若者を増加させた顕著な事例である島根県隠岐郡海士町に焦点を当て、過疎地域における若者人口増加のメカニズムを解明する。同町唯一の高校である島前高校の事例は2008年に89名であった生徒数が2017年には184名まで増加した顕著な成功事例であるということができよう<sup>5)</sup>。

本論文では、さらに、島前高校の成功事例のメカニズムを踏まえて、高知県の馬路村で若者を増やすことを検討する。ゆずの6次産業化で成功した同村が、再び人口を増やして過疎化を回避するための仮説を導出する。

以下では、2節で島根県隠岐郡海士町の概要を示し、3節で、若者増加の効果をもたらした島前高校魅力化プロジェクトについて取り上げる。4節では、同校の成功メカニズムを明らかにするとともに、それを踏まえて馬路村で若者人口を増やすための考察を行う。

### 2. 島根県隠岐郡海士町の総合振興計画

海士町は日本海の島根半島沖約60kmに浮かぶ隠岐諸島の

中ノ島であり、1島1町の小さな島である(面積33.46km<sup>2</sup>、周囲89.1km)<sup>6)</sup>。同町は対馬暖流の影響を受けた豊かな海と、名水百選(天川の水)に選ばれた豊富な湧水に恵まれていることから、自給自足のできる半農半漁の島となっている<sup>6)</sup>。同町では、2010年(2374人)から2019年(2262人)にかけて人口減少は最小限に抑えられており、2012年(2316人)～2013年(2357人)にかけてと、2014年(2346人)～2015年(2353人)にかけては微増ではあるものの人口が増加した<sup>7)</sup>。それは、海士町が全国に先駆けて行った産業振興策や隠岐島前高校を軸とした教育魅力化などの取り組みの成果である<sup>7)</sup>。

海士町は、2009年に策定した「第4次海士町振興計画」において同町の若者増加を明確に掲げた(表1参照)。同計画は、海士町ならではのまちづくりを追求するための計画であり、「島の幸福論」をテーマとし、「ひと・産業・暮らし・環境」の4つの視点から計47の施策が組み込まれたものである。同町で、2018年までの10年間にわたって取り組まれた。

同町は、また、住民たちが生活の中で抱える課題を解決し、満足度を高めるべく、住民と行政の連携を前提とした「住民が提案する具体的な事業」をまとめた<sup>8)</sup>。それらは、「1人でできること」「10人でできること」「100人でできること」「1000人でできること」の4つに分類されて、住民の主体的な行動や貢献を促した。そうした第4次海士町総合振興計画において特に重点を置かれたのが、島前高校の生徒数増加に対する取り組み「島前高校魅力化プロジェクト」であった<sup>9)</sup>。

隠岐島前高校では、2008年度に入学者数28名、全校生徒が89名となってしまう統廃合の危機に陥った<sup>10)</sup>。しかし、2017年度になると、生徒数が184名へと2倍以上に回復した(図1参照)。島根県では、島前高校のそうした成功事例が活用されて、2011年から県全体で離島・中山間地域の高校魅力化・活性化事業が開始された。その結果、「しまね留学」や「コーディネーター」の配置を通して、県外から島根県の県立高校への入学者が年々増加するようになった(図2参照)<sup>11, 12)</sup>。

表1 海士町振興計画 出来事年表

|       |   |
|-------|---|
| 2005年 | 人間力推進プロジェクトのスタート(島前高校の魅力化に取り組む) <sup>13)</sup>            |
| 2006年 | 第一回「AMAワゴン」(岩本悠氏の移住) <sup>14)</sup>                       |
| 2008年 | 高校改革の推進母体「隠岐島前高等学校の魅力化と永遠の会」の発足 <sup>15)</sup>            |
| 2009年 | 第4次海士町振興計画、魅力化構想の策定 <sup>9)</sup>                         |
|       | 「島の幸福論」と「海士町を作る24の提案」の作成 <sup>16)</sup>                   |
| 2010年 | 島留学制度・隠岐国学習センターの設立 <sup>9)</sup>                          |
| 2011年 | 特別進学コース、地域創造コースの開始 <sup>17)</sup>                         |
| 2012年 | 学級増加により2クラス化の実現 <sup>17)</sup>                            |
|       | 標準法の改正により、島前高校の教員数が増加 <sup>17)</sup>                      |
| 2014年 | 島前研修交流センター(島外生の受け入れ施設・高校生と地域の人たちが交流する場)の整備 <sup>18)</sup> |
|       | 島前高校魅力化プロジェクト「新・魅力化構想」の提言 <sup>9)</sup>                   |
| 2015年 | 「海士町創生総合戦略・人口ビジョン」の策定 <sup>19)</sup>                      |
| 2016年 | ICTによる新しい遠隔授業システム導入 <sup>20)</sup>                        |
| 2017年 | 小中学校魅力化事業・親子留学事業の開始 <sup>21)</sup>                        |
| 2018年 | 第4次海士町振興計画終了  |

(出所) 文献9)、13)～21)を元に筆者作成

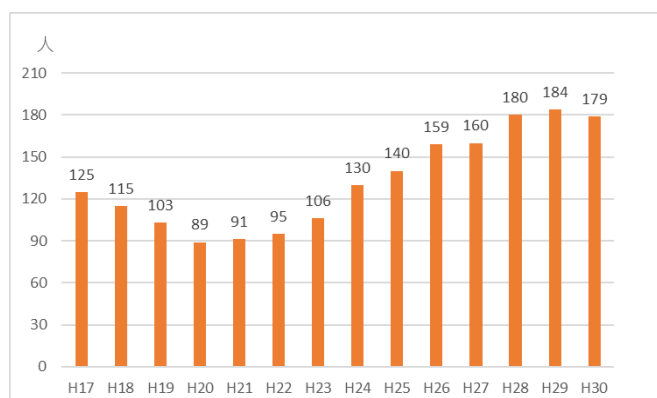


図1 隠岐島前高校全校生徒数の推移

(出所) 文献5)より抜粋

### 3. 島前高校魅力化プロジェクト

第4次海士町総合振興計画で重点が置かれた島前高校魅力化プロジェクトとは、島前地域で島の暮らしにある幸せや豊かさが持続するべく、教育分野から貢献しようとしたプロジ

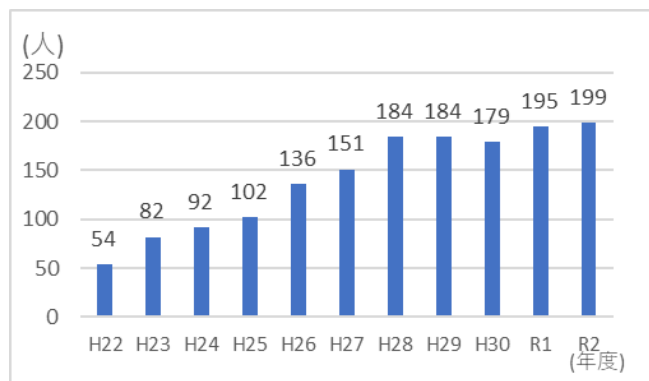


図2 県外から島根県の高校に入学した生徒数

(出所) 文献10)より抜粋

ェクトである<sup>22)</sup>。同プロジェクトは、第四次海士町振興計画が定められた2009年から本格的に開始された。それは、2005年に「人間力推進プロジェクト」を開始したことと、2008年に岩本氏が地域教育コーディネーターに就任したことを基盤としている。

人間力推進プロジェクトは、他の地域との交流を通じた「人づくり」を目指した<sup>13)</sup>。その1つの2006年5月から開始された「AMAワゴン」は、日本の最先端で活躍している講師と島外からの参加者が地域の人々と交流をしながら海士町の様々な取り組みに参加するプロジェクトである<sup>14)</sup>。島の高校生にとっても、出前授業を通して海士町の課題について考える良い機会となった。第一回目の出前授業は、2006年5月に、岩本氏が来島して行われた。岩本氏はそれをきっかけとして、2007年から人間力推進プロジェクトによる島前高校の魅力化事業に取り組んだ<sup>14)</sup>。

2008年になると、高校改革の推進母体となる島前3町村から「隠岐島前高等学校の魅力化と永遠の発展の会」が発足された。前年の2007年に、海士町の教育コーディネーターに就任した岩本氏はこれまでの学習をより実践的な授業に変えるべく、島前高校の教育改革に着手した<sup>9, 23)</sup>。岩本氏は、2010年に島留学制度を開始し(教育改革①)、隠岐国学習センターを開所した(教育改革②)<sup>9)</sup>。さらに、2011年に島前高校で、「特別進学コース」と「地域創造コース」の2つを創設した(教育改革③)<sup>24)</sup>。これらは、島前高校に県外からの留学生をもたらし、地元の中学生在が島前高校に進学する要因となった。以下では、地域教育コーディネーターとして岩本氏が実施した3つの教育改革についてそれぞれ簡単に説明する。

2010年から開始された島留学制度は全国から意欲・能力の高い入学生を島前高校で受け入れた<sup>25)</sup>。当時、島前高校の弱みとして、小・中・高で人間関係が変化しないことが挙げられていた<sup>26)</sup>。外部の生徒と関わる機会の少なかった地元生にとって、島外から来た優秀な高校生と接することは、新しい価値観に触れ、刺激を受ける良い機会となった。

また、当時、海士町で大学進学を希望するほとんどの生徒は、本島の高校との教育環境の違いに悩んでおり、中学を卒業した時点で、島を離れ本土の高校へ進学していた<sup>27)</sup>。こうした教育環境の格差を解決し、島内に留まった生徒の進学希望を実現するために隠岐国学習センターが設立された。

隠岐国学習センターでは、放課後や土日に島前高校の生徒のみならず、地元の小中学生に対しても学習のサポートが行われた<sup>27)</sup>。その際に、島外の人材を学習コーディネーターとして活用した。学習コーディネーターとは、学校と連携し、生徒一人ひとりの学習意欲を引き出し、進路希望を実現させる役割を担う人材のことである<sup>27)</sup>。

隠岐国学習センターのカリキュラムとして「教科指導」と「夢ゼミ」がある。教科指導では、各生徒の学力に合わせた指導を行い、学力の向上や自ら学ぶ力(自立学習力)を育成した<sup>28)</sup>。また、夢ゼミでは、隠岐島前地域を題材とした自分の課題に対して、島内外の人との対話や実践を通じて研究を行い、自分の進路実現につなげた<sup>29)</sup>。

隠岐国学習センターは、生徒の学びをより深めるために、ICTを活用することにした。当該学習センターではICTを活用して、授業映像の配信や島外の高校生とつないだ遠隔教育を実施した<sup>30)</sup>。島外から学習センターに通うことができない生徒たちにとってそうした教育は必要不可欠となった。島前

高校でも2016年からICTの活用が開始され、島外の高校生とつないだ遠隔授業や地域課題の解決に向けてのディスカッションなどを実施した<sup>29)</sup>。島内外を問わず、多様な人と関わるができるICTの活用は、生徒たちの学びの幅を広げ、学習意欲を向上させた。

2011年には、島前高校において「特別進学コース」と「地域創造コース」が創設された<sup>24)</sup>。そのうちの特別進学コースでは、学習センターと密に連携した個別指導や少人数指導で、国公立大学や難関大学への進学を目指した教育が行われた。また、「地域創造コース」では島前地域そのものを教材として、地域内外の優れた人材の協力を得ながら地域の魅力や課題を探究した。その際に、その解決策を立案、実践し、評価や改善を行った<sup>31)</sup>。同校では、この2つのコースを創設することにより、大学への進学者数を増加させ、生徒の実践を通じた課題発見・解決力を身につけることができた<sup>31)</sup>。

島前高校は、岩本氏による上記3つの教育改革を実施することで、89名だった生徒数が2011年に106名までに回復した<sup>5)</sup>。さらに、2012年には悲願の2クラス化を実現し、2017年には生徒数が184名までに増加するなど大きな成果を上げることができた<sup>5, 17)</sup>。図3に、島前高校魅力化プロジェクトによる島前高校の生徒数が増加するまでの因果メカニズムを示す。

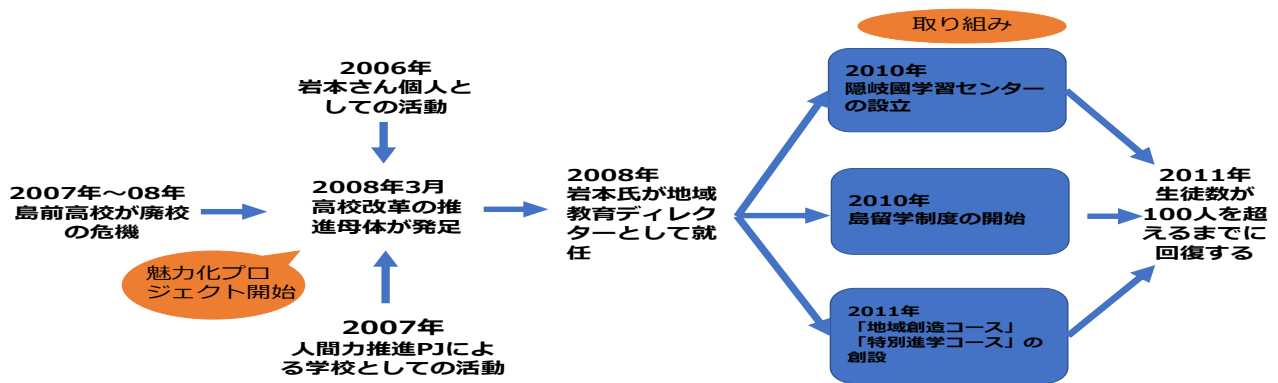


図3 島前高校の生徒数が増加するまでの因果メカニズム

(出所) 筆者作成

## 4. 考察

本節では、まず、前節で述べた島前高校魅力化プロジェクトの事例から、島前高校の生徒数増加の成功のメカニズムを明らかにする。次いで、その分析結果で得た要因を用いて、馬路村で若者人口を増加させるための考察を行う。

### 4.1 島前高校の生徒数増加メカニズム

島前高校における生徒数増加の成功のメカニズムを図4に示す。海士町では、教育やICTに長けた人材を外部から積極的に招聘し（図4の①）、隠岐國学習センターの設立（図4の②）、留学生の呼び込み（島留学制度のこと、図4の③）、新たな教育プログラム（特別進学コースと地域創造コースのこと、図4の④）という4つの教育改革を行ってきた。

隠岐國学習センター（図4の②）では、生徒への学習サポートを通じて、自立的学習を促進した（図4の⑤）。ICTを活用した充実した学習環境によって自立的学習が促進することで、地元生と留学生双方の学習意欲が向上した（図4の⑦）。

島留学としての留学生の呼び込み（図4の③）や、2つのコースからなる新たな教育プログラムの作成（図4の④）では、島前高校独自の教育を実施（図4の⑥）しつつ、海士町で学びたいと思う留学生を受け入れた。その際に、地域課題を題材とした教育や大学進学に向けた学習を行うことで、地元生や都会から留学してきた生徒の学習意欲が向上した（図4の⑦）。

そうして学習意欲が向上した留学生の中には、島前地域の教育や生活に対する満足度が向上して（図4の⑧）、島前地域の課題に継続的に取り組みたいと考える生徒もいた。このような生徒が島前地域に定着して、人口増加に結びついた（図4の⑨）。

以上から、海士町の若者増加のための施策として特に重要な要因は、①「外部の人材の招聘」、②「隠岐國学習センターの設立」、③「留学生の呼び込み」、④「新たな教育プログラムの策定」の4点（図4の①～④）であるということができよう。それらが、以降の要因（図4の⑤～⑨）を引き出し、島前高校魅力化プロジェクトを成功に導いたと考えることができよう。そこで、以下では、上記4つの要因をもとに馬路村で若者人口を増やすための考察を行う。

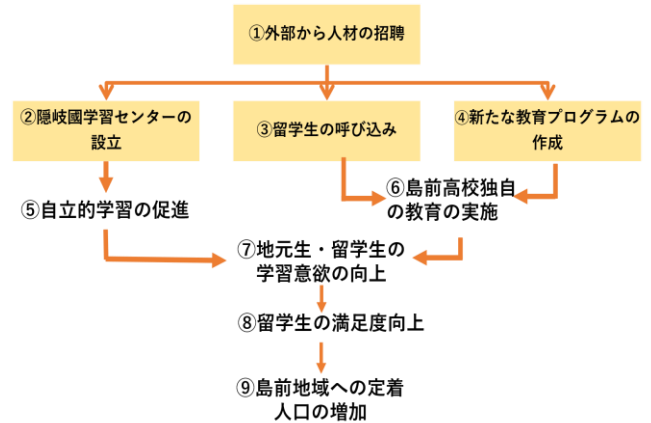


図4 島前高校の生徒数増加の要因メカニズム

（出所）筆者作成

### 4.2 馬路村で若者人口を増やすための仕組みづくり

本論文の冒頭で述べたとおり、馬路村には年商30億円を超えるゆずの6次産業が発達した。その結果、人々の働く場ができて、移住・定住の環境が整った。それにもかかわらず、人口は増加しておらず、過疎化に歯止めがかからない状況となっている。そこで、以下では、島根県隠岐郡海士町の事例と同様に、若者人口を増やして同村の人口減少の回避を考えたい。

馬路村の若者人口の増加を考察するにあたって、最も考慮しなければならない問題は、村内に高校生のための学習環境が十分に整っていないことである。同村には小中学校が1校ずつあり、小中一貫教育が行われているものの、村内に高校がない。そのため、同村の生徒が高校に進学する場合には、バスで50分かけて近隣の市の高校に通学するか、下宿をすることになる<sup>32)</sup>。したがって、高校生が村内に留まることができないため、村に県外留学生を受け入れてもそこに定着してもらえない。したがって、現状のままでは、馬路村において、島前高校に見られた成功のメカニズムを再現することは難しい。

こうしたことから、馬路村では、村外の高校に通わざるを得ない生徒や留学生が馬路村内で学ぶことのできる環境を構築することが最優先の課題となる。そこで、以下に、海士町の若者増加要因である①～④の4点から馬路村で若者が増加するための仕組みを提言する。

まず、①「外部の人材の招聘」である。馬路村では、現在、環境業や農業、地域活動を行う人材としての「地域おこし協力隊」を外部から受け入れている<sup>33)</sup>。しかし、そこで活動している人たちが必ずしも学校教育にまで関わっているとはいえない。また、高知大学の地域協働学部では、馬路村での実習や出前講座を行うなど、大学生が同村を訪れる体制を整備している。しかし、高校生向けの実習が村内で行われておらず、高校生が馬路村を訪れ、体験する機会が設けられていない。

そこで、同村では、高校生の段階から地域課題に触れるべく教育を進めていくことのできる人材や、馬路村に関わる地域おこし協力隊やNPO団体などの人材と留学生をつなぐコーディネーターとしての人材を外部から招聘することが求められる。その場合、まず、外部の人材が馬路村を訪れる機会を増やすことが必要となる。海士町のAMAワゴンでなされた出前授業のように、村を訪れた人と村人が馬路村の課題に対して共に考える交流の機会を増やし、馬路村について学んでもらうとともに興味を持ってもらうことが重要であろう。

次に、②「(ICTを活用した)学習センターの創設」である。高知県内でも、令和元年度には、中山間地域の小規模校10校と高知市の1校と南国市の1校のそれぞれが、高知市大津にある教育センターと連携して遠隔教育に取り組んだ<sup>34)</sup>。それによって、生徒数が少ない小規模の高等学校であっても、教育の質を維持するべく、ICTを活用することで教育機会が確保され、高度な教育が提供された。

しかし、馬路村のように高校自体がなく、設立することが困難な地域に対しての支援は現在でも十分になされていない。そのため、馬路村内に、他の高校、大学などとオンライン接続しての教育を可能とする学習センターを近隣の高校の分校として設立することを提案したい。村内でICTを活用した学習センターを作ることによって、馬路村の中学生は村に留まったまま高校教育を受け、そこに県外留学生を受け入れることも可能となる。また、馬路村と同様の地域課題を抱えている他県の高校と学習センターをICTでつなぐことで、課題の解決策についての議論を交わすことができ、新たな学びを発見できる。

そうして村内で学習センターを運営していくためには、隠岐郡学習センターの事例と同様に、学習コーディネーターが

必要となるだろう。学習コーディネーターは、生徒の学習意欲を引き出し、進路希望を実現させることに加えて、分校である学習センターと本校が連携した教育を行うための支援体制を構築する役割を担うことが期待される。

そして、③「留学生の呼び込み」である。馬路村には小中学校が1校ずつしかなく、生徒数も極めて少ない。そのため、村内に高校生を増加させるためには留学生の呼び込みが不可欠となる。海士町では、島留学制度を制定し、全国から意欲のある生徒を募集した。馬路村でも、同村で学びたい意欲のある生徒を積極的に確保することが求められる。そのためには、やはり、留学生を呼び込むためのコーディネーターが必要となるだろう。海士町では、岩本氏が中心となって、都会に向けての情報発信や留学制度を整えた。馬路村でも留学に携わるコーディネーターを立てて、留学生が馬路村について知ることのできる仕組みを作ることが求められる。

最後に、④「(馬路村ならではの)新たな教育プログラムの策定」である。馬路村には魅力的なゆずの6次産業がある。それだけでなく人口減少を伴う深刻な地域課題がある。海士町でも同様の課題を抱えていたものの、島前地域を教材とした実践的な教育や島内外の人を巻き込んだ教育改革を行うことで若者人口の増加を成し遂げた。馬路村でも同様に、村の魅力や課題を題材とした地域協働型の教育を実践することで若者人口の増加を期待できる。地域の作り手の育成を目指す教育プログラムを策定することで、留学生の学習意欲や満足度が向上し、若者増加につながると考えられる。

また、村外の進学校と比較しても劣らない教育プログラムも策定しなければならない。大学進学を目標とする生徒は、村外との教育環境の格差が大きければ、村外の進学校へ進学することになってしまう。これでは、馬路村に高校生を十分に確保することができない。よって、村内の学習センターにおいて、大学進学を目指した教育や支援を行うことが必要であろう。例えば、進学校や大学と連携して、学習センターでICTを活用した授業配信、指導、出前授業を受けられるようにするのはどうだろうか。また、大学受験指導の経験・実績のある講師を外部から招聘し、生徒の学習のサポート環境を充実することが挙げられる。馬路村から大学への進学率が高まれば、近隣の市町村からも生徒が通うようになり、村の高校生がさらに増加することが考えられる。

## 5. おわりに

本論文の結論は次の通りである。馬路村をはじめとした過疎地域が、とにかく人口を増加させるためには、若者それも高校生に着目した地域密着型の教育改革を行うことが効果的である。その際に、①外部の人材の招聘、②学習センターの設立、③留学生の呼び込み、④新たな教育プログラムの策定を巧みに組み合わせることで、地域外から若者を呼び込み、地元の高校生も含めて満足度を高め、定住を促しつつ人口増加を図ることが可能となる。そのためには、地域が、プロデューサーやコーディネーターを外部から招聘するとともに、若者への教育に深く関与する体制を整えることが肝要である。本論文では、馬路村の事例で、それが成功する余地のあることを指摘した。

今回取り上げた海士町での若者増加の事例を、馬路村だけでなく高知県の他の高校でも実践することが今後の課題である。高知県内には、村内に高校が無く、村外に高校生が流出している町村が馬路村以外にも存在する。そのような地域で今回のメカニズムを取り入れることで、若者増加を成し遂げ、深刻な過疎化を回避する方策を図りたい。

## 参考文献

- 1) 「過疎問題懇談会 これからの過疎地域活性化施策の在り方平成6年5月」  
<http://www.ipss.go.jp/publication/j/shiryu/no.13/data/shiryu/syakaifukushi/494.pdf> (2021年2月12日参照)
- 2) 「高知家で暮らす。馬路村/市町村紹介」  
<https://kochi-iju.jp/cities/umajimura/> (2021年2月12日参照)
- 3) 「馬路村統計資料」  
<http://www.vill.umaji.kochi.jp/pdf/H29.12toukei.pdf> (2021年2月12日参照)
- 4) 「グラフで見る！馬路村(ウマジムラ高知県)の人口の推移(2000年-2045年)【出所】総務省 国勢調査及び国立社会保障・人口問題研究所 将来推計人口、総務省 住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数」  
<https://jp.gdfreak.com/public/detail/jp010050000001039306/1>

(2021年2月12日参照)

- 5) 「魅力化プロジェクトについて | 隠岐島前教育魅力化プロジェクト」<http://miryokuka.dozen.ed.jp/about/> (2021年2月12日参照)
- 6) 「隠岐郡海士町概要 隠岐郡海士町オフィシャルサイト」<http://www.town.ama.shimane.jp/about/gaiyo/> (2021年2月12日参照)
- 7) 「海士町エンジン全開計画《第二期海士町創生総合戦略・人口ビジョン》」  
[http://www.town.ama.shimane.jp/topics/200331\\_sougousenryaku.pdf](http://www.town.ama.shimane.jp/topics/200331_sougousenryaku.pdf) (2021年2月12日参照)
- 8) 「島根県隠岐郡海士町 第四次海士町総合振興計画」  
[http://www.town.ama.shimane.jp/gyosei/pdf/ama\\_soshin04a11.pdf](http://www.town.ama.shimane.jp/gyosei/pdf/ama_soshin04a11.pdf) (2021年2月12日参照)
- 9) 「隠岐郡海士町広報誌 平成26年7月 山内町長、4期目にかかる想い2P~4P 隠岐郡海士町オフィシャルサイト」  
[http://www.town.ama.shimane.jp/koho-ama/pdf/453\\_2p-3p-4p.pdf](http://www.town.ama.shimane.jp/koho-ama/pdf/453_2p-3p-4p.pdf) (2021年2月12日参照)
- 10) 「隠岐島前高等学校新魅力化構想-隠岐島前教育魅力化プロジェクト」  
<http://miryokuka.dozen.ed.jp/wp/wp-content/uploads/2018/06/miryokuka-kousou.pdf> (2021年2月12日参照)
- 11) 「しまね留学とは？ | 島根留学」  
<https://shimane-ryugaku.jp/outline/whatis/> (2021年2月12日参照)
- 12) 「しまね留学データ | しまね留学」  
<https://shimane-ryugaku.jp/outline/data/> (2021年2月12日参照)
- 13) 「隠岐郡海士町広報誌 平成18年5月 隠岐郡海士町オフィシャルサイト」  
<http://www.town.ama.shimane.jp/news/pdf/399%20H1805.pdf> (2021年2月12日参照)
- 14) 「隠岐郡海士町広報誌 平成18年9月 隠岐郡海士町オフィシャルサイト」  
<http://www.town.ama.shimane.jp/news/pdf/401%20H1809.pdf> (2021年2月12日参照)
- 15) 「隠岐郡海士町広報誌 平成20年5月 隠岐郡海士町オフィシャルサイト」  
<http://www.town.ama.shimane.jp/news/pdf/413H2005.pdf> (2021年2月12日参照)
- 16) 「隠岐郡海士町オフィシャルサイト 海士ならではの笑顔の追求」  
[http://www.town.ama.shimane.jp/gyosei/pdf/ama\\_soshin04all.pdf](http://www.town.ama.shimane.jp/gyosei/pdf/ama_soshin04all.pdf) (2021年1月26日参照)
- 17) 「隠岐郡海士町広報誌 平成25年7月 特集:『高校魅力化プロジェクト』を知る2~5P 隠岐郡海士町オフィシャルサイト」  
<http://www.town.ama.shimane.jp/koho-ama/pdf/kouhou1307-0205.pdf> (2021年2月10日参照)
- 18) 「隠岐郡海士町広報誌 平成27年3月 隠岐郡海士町オフィシャルサイト」  
[http://www.town.ama.shimane.jp/koho-ama/pdf/457\\_4p\\_5p.pdf](http://www.town.ama.shimane.jp/koho-ama/pdf/457_4p_5p.pdf)

- (2021年2月12日参照)
- 19) 「海士町創生総合戦略・人口プラン《海士チャレンジプラン》」  
<http://www.town.ama.shimane.jp/topics/pdf/amaChallengePlan2015.pdf> (2021年2月12日参照)
  - 20) 「隠岐郡海士町広報誌平成28年9月 元気な海士 8～9P 隠岐郡海士町オフィシャルサイト」  
[http://www.town.ama.shimane.jp/koho-ama/pdf/466\\_8-9p.pdf](http://www.town.ama.shimane.jp/koho-ama/pdf/466_8-9p.pdf)  
(2021年2月12日参照)
  - 21) 「隠岐郡海士町広報誌平成28年11月 教育だより(小中学校魅力化・親子留学事業)隠岐郡海士町オフィシャルサイト」  
[http://www.town.ama.shimane.jp/koho-ama/pdf/471\\_10-11p.pdf](http://www.town.ama.shimane.jp/koho-ama/pdf/471_10-11p.pdf)  
(2021年2月12日参照)
  - 22) 「隠岐島前教育魅力化プロジェクト」  
<http://miryokuka.dozen.ed.jp/> (2021年2月12日参照)
  - 23) 「隠岐郡海士町広報誌 平成19年1月 隠岐郡海士町オフィシャルサイト」  
<http://www.town.ama.shimane.jp/news/pdf/403%20H1901.pdf>  
(2021年2月12日参照)
  - 24) 「隠岐郡海士町広報誌 平成23年5月 平成23年度 行政施策方針(抜粋)2P～5P 隠岐郡海士町オフィシャルサイト」  
<http://www.town.ama.shimane.jp/news/pdf/kouhou1105-0205.pdf>  
(2021年2月12日参照)
  - 25) 「『島留学』全国から募集中！ | 隠岐郡海士町オフィシャルサイト」  
<http://www.town.ama.shimane.jp/news/attention/post-27.html>  
(2021年2月12日参照)
  - 26) 「隠岐郡海士町広報誌 隠岐郡海士町オフィシャルサイト 平成22年1月 教育だより、島前高校だより」  
<http://www.town.ama.shimane.jp/news/pdf/kouhou1001-1620.pdf>  
(2021年2月12日参照)
  - 27) 「学習コーディネーター募集 | 隠岐郡海士町オフィシャルサイト」  
<http://www.town.ama.shimane.jp/saiyo/post-11.html> (2021年2月12日参照)
  - 28) 「隠岐国学習センター 隠岐国学習センターとは」  
<http://www.oki-learningcenter.jp/about/> (2021年2月12日参照)
  - 29) 「DiS 教育 ICT 総合サイト 課題先進地・海士町は、教育で何を変え始めているのか？(後編)2018年2月12日」  
<https://www.sip.dis-ex.jp/news.html?id=195> (2021年2月1日参照)
  - 30) 「隠岐郡海士町 広報誌 平成28年3月 元気な海士 5P 隠岐郡海士町オフィシャルサイト」  
[http://www.town.ama.shimane.jp/koho-ama/pdf/463\\_5p.pdf](http://www.town.ama.shimane.jp/koho-ama/pdf/463_5p.pdf)  
(2021年2月12日参照)
  - 31) 「島根県海士町と隠岐島前高等学校の取組 H16年」  
[https://www.pref.iwate.jp/\\_res/projects/default\\_project/\\_page/001/006/449/siryu3.pdf](https://www.pref.iwate.jp/_res/projects/default_project/_page/001/006/449/siryu3.pdf) (2021年2月12日参照)
  - 32) 「堂々たる田舎馬路村 移住・定住応援サイト よくある質問～Q&A～」 <https://umaji-iju.jp/qa.html> (2021年2月12日参照)
  - 33) 「堂々たる田舎馬路村 地域おこし協力隊の紹介」  
<https://umaji-iju.jp/introducecooperation.html> (2021年2月12日参照)
  - 34) 「高知県教育委員会 令和元年度「高等学校における次世代の学習ニーズを踏まえた指導の充実事業」(2年目)～高知県の遠隔教育の取組～ 令和2年3月」  
[https://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/311701/files/201606060102/file\\_20203194102054\\_1.pdf](https://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/311701/files/201606060102/file_20203194102054_1.pdf) (2021年2月12日参照)